





“私達は、ローコードやノーコードのソリューションによってアーキテクチャーのモダナイズを推進するに際して、Event Portal for Kafkaがイベントドリブンなマイクロサービスへの移行を加速してくれるものと確信しています。”

David Glenn氏  
プリンシパルソフトウェアエンジニア  
AFNI社

## Kafkaの資産を把握

- ランタイムディスカバリーエージェントを使用して、オープンソース、AWS MSK、ConfluentといったKafkaディストリビューションからイベントストリームを容易にスキャンしてアップロードすることができます。
- Designerでシステムを視覚的に表現し、検出したイベント、エンドポイント、さらにサブスクリプションを、アプリケーションやアプリケーションドメインと関連付けることができます。

## イベント、トピック、アプリケーションのカタログ化

- 既存のトピック、スキーマ、イベントメッシュ、各アプリケーション向けのpub/subインターフェース、所有者と連絡先、さらに、管理された各EDAエンティティに対する変更を文書化してトラッキングすることができます。
- フィルター、タグ、所有者によりイベントデータを参照および検索することで、イベントストリームの再利用が可能となります

## Event API Productによる集約と共有

- イベントをグループ化し、イベントの再利用を促進します。
- Event API Productの連携によって、社内および社外のステークホルダーとEvent API Productを共有することができます。

## ビルトインされたベストプラクティスによるイベントドリブンシステムの設計と可視化

- アプリケーションドメインを使用してシステムを構成することができます。
- 様々な形式でペイロードのスキーマを定義したり、インポートすることができます。
- すべてのアプリケーション、マイクロサービス間のイベントインターフェイスをpub/subインターフェイス、関連するトピックのアドレスを含めて定義できます。

## 一貫性あるイベントドリブンアプリケーションを迅速に開発

- AsyncAPI 2.0.0の仕様で生成、エクスポートすることができます。
- AsyncAPI オープンソースコミュニティのコードジェネレーターを使って、エクスポートした仕様からアプリケーション向けのコードを生成することができます。

## イベントデータのコントロール

- 個々のユーザーによる変更内容を監査、トラッキングできます。
- チームやアプリケーションドメイン間でのイベントの利用をコントロールすることができます。
- 各クライアントやインターフェースに適用する仕様を選択できます

## 依存関係の分析

- アプリ、イベント、スキーマに対する変更提案が、上流および下流の処理に与える影響を完全に把握することができます。
- 最も利用されている、または利用されていないイベントの特定、イベントドリブンデータの流れを追跡することができます。
- 既存のEDAモデルをバルクでインポートし、CI/CDパイプラインに統合することができます。

## イベントのライフサイクル管理

- 既存のアプリ、イベント、スキーマをアップデートし、新しいリビジョンを作成することができます。
- オブジェクトを以前のリビジョンにロールバックしたり、削除の取り消しを行うことができます。
- 既存バージョンの最新リビジョンから、アプリ、イベント、スキーマの新しいバージョンを作成することができます。

より詳細または無料トライアルは、  
[solace.com/products/portal/kafka/](https://solace.com/products/portal/kafka/)  
にアクセスしてください